

静岡市ものづくり産業振興基本計画中間案に関する市民意見募集結果と市の対応方針

- 1 計画名 静岡市ものづくり産業振興基本計画
- 2 募集期間 平成24年2月28日～平成24年3月28日(30日間)
- 3 提出者 男性 40代
- 4 提出意見 12件(1人)

頁	市民意見の該当部分	意見数	対応状況
21	第2章 静岡市ものづくり産業の現状と課題 4(1)④良好な立地環境	1件	参考意見
22	4(2)①優秀な人材の確保と養成	1件	〃
31	第3章 基本計画の目標と方針 4(事業1)企業と大学等の就職に関する情報交換の促進及び(事業2)(仮)経営者と大学生の縁結び事業の推進	1件	参考意見
31	4(事業3)定年延長を見越した中高年技術研修の検討	1件	〃
31	4(事業4)理工系大学の誘致及び市内の既存大学における工学部新設の検討	1件	〃
32	4(事業7)伝統工芸技術秀士の指定及び顕彰の推進・PR活動の促進	1件	〃
32	4(事業8)クラフトマンサポート事業の拡充	1件	〃
35	4(事業33)産業構造の将来予測等に関する調査研究の検討	1件	〃
36	4(事業37)国・県・民間の産業支援機関・団体と連携した支援	1件	〃
36	4(施策10)ものづくり産業と教育機関の連携強化	1件	〃
37	4(事業48)市民向けものづくり体験・学習イベントの開催	1件	〃
37	4(事業49)ものづくり現場企業見学会の開催	1件	〃
計		12件	

5 意見募集結果一覧等

番号	頁	提出意見	市の対応方針
1	21	<p>ものづくり産業における強み 良好な立地環境について</p> <p>過去において静岡市の首都圏に近く、交通インフラが整備されているということは大きなメリットでした。しかし、情報技術の進展は東京から近いというメリットの相対的な低下をもたらすでしょうし、全国の交通インフラの整備が進んでいる事も静岡市の魅力が相対的に低下する事につながると思います。良好な立地条件にあぐらをかいて、必要な施策を行わないと将来に禍根を残すと思います。そのような観点から、「また、物流や移動における優位性が本市をさらに魅力的な市場に成長させる可能性を含んでいます。」を「情報技術の進展や交通インフラの全国的な整備の進展は、静岡市の立地における優位性を相対的に低下させる可能性を秘めています。」</p>	<p>事業所ヒアリングでは、首都圏に近い立地環境を優位と判断しているところが多くあります。そのような優位な立場が本市のものづくり産業の振興に関する可能性を含んでいる一方で、御意見にある御懸念を参考としながら、良好な立地環境をさらに活かす取り組みについて、検討を進めていきたいと考えています。</p>
2	22	<p>ものづくり産業における課題 優秀な人材の確保と養成について</p> <p>ものづくりの基盤は優秀な人材の確保です。優秀な人材は自分の子弟の教育を大切にします。しかし、静岡市の初等教育、中等教育は首都圏に比べ見劣りするのが現状です。大学受験において、静岡の子どもたちは思うような成果を挙げられていません。優秀な人材の確保には、初等教育・中等教育の向上が欠かせないと思います。このような観点から文章の最後に「初等教育、中等教育、高等教育の充実が必要とされています。」との文章をいれたらどうでしょうか？</p>	<p>御意見にある初等教育等の充実も重要な視点と考えられますが、本市のものづくり産業の振興を図る上では、さまざまな世代間が多様な機会を通じ、ものづくりへの関心、熟練度の向上、技術の継承などに関して、総合的な職業能力の高度化に取り組むことで、優秀な人材の確保と養成に努める必要があると考えています。</p>
3	31	<p>(事業1) 企業と大学等の就職に関する情報交換の促進及び(事業2) (仮) 経営者と大学生の縁結び事業の推進について</p> <p>よい取り組みだと思います。事業を拡充すべきではないでしょうか？</p>	<p>事業1の企業と大学等の就職に関する情報交換の促進については、地域企業の人材確保を目的に、公共職業安定所及び静岡商工会議所と共催で実施しています。平成23年度に対象企業の範囲を拡大したところ、75社の参加がありました。</p> <p>事業2の(仮)経営者と大学生の縁結び事業の推進については、学生に本市の代表的な産業を理解してもらうため、平成24年度から開始する事業です。中小企業からの情報発信を強化するため、今後は参加企業の拡大を検討していきます。</p>

番号	頁	提出意見	市の対応方針
4	31	<p>(事業3) 定年延長を見越した中高年技術研修の検討について</p> <p>中高年技術者の技術を上手に活用する事は必要ですし、そのために定年延長されることは若年者の雇用を奪わないという前提においてよいことだと思います。それは、基本的には今まで企業の中で培っていた技術を活用する事に主座がおかれるはずで、わざわざ、自治体で(企業横断的に)研修会を開く事は費用対効果の面で問題がある(費用対効果が悪い)と思います。この事業は新設する有用性にかけてと思います。</p>	<p>事業所ヒアリングでは、技術研究会等のネットワークに関して一部で取り組まれているものの、行政の支援を通じた異業種等の技術研究会等の機会を望む意見がありました。今後、このような研修機会などでは、イノベーションの創出や多様な世代への教育訓練の進展のほか、中高年層が有する技術の更なる高度化と横断的なネットワークの形成が見込まれることから、本市のものづくり産業の振興に寄与するものと考えています。事業の実施にあたっては、御意見の費用対効果を意識しながら進めていきたいと考えています。</p>
5	31	<p>(事業4) 理工系大学の誘致及び市内の既存大学における工学部新設の検討について</p> <p>今後、少子化が進んでいく現状を考慮すると理工系大学の誘致及び市内の既存大学における工学部新設は困難が伴うと思われます。まずは、静岡市内の高校生の理工系大学への進学を増加を目指す事が先決なのではないでしょうか？理工系大学への進学が増加があれば、Uターンによるものづくりに必要な人材が確保されるでしょうし、理工系大学の誘致が可能になると思います。学生を集められる目途が立たなければ、大学側も新設に積極的にはなれないと思います。</p>	<p>御意見にあるとおり、困難を伴う事業であると思われませんが、本市のものづくり産業の振興を図る上では、地元に通勤場の企業と理工系大学等の研究機関が必要と考えています。ものづくり産業におけるイノベーションへの取り組みを醸成させる観点などからも、理工系大学等を中心とした人的ネットワークの形成も重要と考えています。今後は、御意見の内容を参考としながら検討に努めていきます。</p>
6	32	<p>(事業7) 伝統工芸技術秀士の指定及び顕彰の推進・PR活動の促進について</p> <p>静岡市のものづくりにおいて、雇用の面や生産額の面で伝統工芸の占める割合は現在でも大きくはないし、今後縮小する事が想定されます。そのような領域に新たな事業を立ち上げることは、費用対効果の面から問題があるのではないのでしょうか？</p>	<p>本市の伝統工芸に関する雇用や生産額では、御意見で指摘される点が懸念されますが、一方で本市の文化や歴史の一端を担う伝統工芸技術秀士の指定等に関する事業は、費用対効果だけでは取り扱えないことも、御理解をいただきたいと思います。事業の実施にあたっては、費用対効果に関して細心の注意を払って取り組むとともに、過去から現代、そして後世へと受け継いでいく伝統工芸に対する責任が現代の我々にあることへの認識を持ちつつ、事業に努めていきます。</p>

番号	頁	提出意見	市の対応方針
7	32	<p>(事業8) クラフトマンサポート事業の拡充について</p> <p>伝統産業を担う人材が確保できないとしたら、それはその産業に将来性がないと判断されるからだと思います。イノベーションを推進する事業に予算をつぎ込むべきだと思います。未来に向かう投資を考えるべきです。</p>	<p>伝統産業は我々が後世に伝える本市の歴史文化であることに加え、海外での日本の斬新な伝統工芸が注目されていることを考慮すれば、今後の本市の伝統産業に関して、イノベーションなどが創出する可能性があるため、御意見にある将来性は残されていると考えています。また、伝統工芸に携わる技術者の高齢化は考慮しなければならない重要な観点でもあるため、事業の拡充にあたっては、伝統を受け継ぎ、重ね、発展させる人材の育成等の未来に向かうような投資という意識を持ちつつ、費用対効果への注意を払いながら努めていきます。</p>
8	35	<p>(事業33) 産業構造の将来予測等に関する調査研究の検討について</p> <p>産業の空洞化等を含めた将来予測は国レベルで行われる調査研究がたくさんあると思います。わざわざ貴重な予算をかけて、静岡市が独自の調査を行う必要があるのでしょうか。これらの調査研究を静岡市独自に行う費用対効果は検討されているのでしょうか？</p>	<p>本市のものづくり産業は国レベルの経済という側面に加えて、地域特性も併せ持つため、国レベルの予測モデルをそのまま本市のものづくり産業にあてはめることは、適切な予測を多分に困難にするものと考えています。事業の検討にあたっては、費用対効果に細心の注意を払いつつ、国レベルの調査研究も参考にしながら、今後の本市のものづくり産業に関する独自の将来予測に取り組み、ものづくり産業の振興に向けた基礎資料の蓄積等に努めていきます。</p>
9	36	<p>(事業37) 国・県・民間の産業支援機関・団体と連携した支援について</p> <p>様々な情報を一元化することはよいことだと思います。問題は情報の提供の仕方だと思います。紙媒体の情報提供は、費用対効果に問題があるのではないのでしょうか？情報提供は原則として、インターネット経由にすべきではないのでしょうか？</p>	<p>産業支援施設・機関における情報提供は、現在、インターネットを経由したホームページへの掲載やメールマガジンへ登録していただいた方への配信に併せ、施設を利用される方等をはじめとした紙媒体による情報提供を希望される方への提供方法を並立させているところです。引き続き、紙媒体による情報提供も行うことで、より多くの方が情報を得られやすい環境の確保に努めていきたいと考えております。なお、紙媒体による情報提供の際には、御意見にありますように、費用対効果の視点に心がけていきたいと考えております。</p>

番号	頁	提出意見	市の対応方針
10	36	<p>(施策10) ものづくり産業と教育機関の連携強化について</p> <p>教育機関に求めることの第一は、子どもたちの学習習慣をきっちりつけ、基礎学力を向上させる事です。特にものづくり産業のためには、理数教育の充実が求められるかと思います。できれば、教育側と連携して、このような面を伸ばす新事業を新設していただきたいと思います。</p>	<p>御意見にある理数教育の充実に関する基礎学力の向上は、大切なことと認識しています。今後は、中間案に掲げる関連事業への取り組みや教育側との連携に関して、御意見を参考にするとともに、熟達した産業人の教育機会への参加などを含め、幅広い検討を進めていきたいと考えています。</p>
11	37	<p>(事業48) 市民向けものづくり体験・学習イベントの開催について</p> <p>これらのイベントは、どのくらいの費用をかけ、何人ぐらいの参加を想定していますか？これらのイベントに参加した人が、ものづくりに対する理解を多少深めたからといって、静岡市のものづくりにどのようなプラスをもたらすのですか？費用対効果に乏しい事業だと思います。新たに取り組む必要はないのではないのでしょうか？</p>	<p>事業所へのヒアリングでは、ものづくりを体験する機会に関するニーズがあります。今後は、市内ものづくり事業者の御協力をいただきながら、費用対効果を踏まえて予算を検討し、年間300人を目標として、体験型事業に取り組みたいと考えています。また、駿府匠宿で開催される市内の小学4年生を対象とした伝統工芸に関する体験教室とも連携し、より多くの方々に多様な本市のものづくり産業を周知し、理解促進に努めたいと考えています。</p>
12	37	<p>(事業49) ものづくり現場企業見学会の開催について</p> <p>これらのイベントは、どのくらいの費用をかけ、何人ぐらいの参加を想定していますか？これらのイベントに参加した人が、ものづくりに対する理解を多少深めたからといって、静岡市のものづくりにどのようなプラスをもたらすのですか？費用対効果に乏しい事業だと思います。新たに取り組む必要はないのではないのでしょうか？</p>	<p>事業所へのヒアリングでは、ものづくりの現場を多くの方々に見ていただく機会を設けてほしいとの意見が出されています。今後は、そのようなものづくり事業者の御協力をいただきながら、年間300人を目標に見学会を開催し、本市のものづくり産業への関心を高めるとともに、理解促進にも努めたいと考えています。このような見学会は、将来の職業選択に影響することも考えられ、少なからずものづくり産業のプラス要素になるものと考えています。見学会の開催にあたっては、御意見にある費用対効果を意識し、予算などを検討していきたいと考えています。</p>